



# ガス窯作りのプロ集団・大築窯炉工業

ウラも情報満載

必ず良いことがある人のために送る！

DAICHIKUのお得意様向けニュースレター

【発行日】2007年3月1日 【発行人】大築窯炉工業 谷口浩司

〒309-1611 茨城県笠間市笠間2192-5 TEL0296-72-1444【ホームページ】<http://www.daichiku.jp/>

## 茨城県工業技術センター・窯業指導所にて「焼成講座」を実施(一昨年に続き2回目)



ダイチクの経営理念である「陶芸を通じて社会貢献をする」という考えから、簡単に実践できて役に立つ情報を2時間お話ししました。

2月7日(水)茨城県工業技術センター窯業指導所にて陶芸窯の「焼成講座」を行いました。当日は研修生、独立直後および独立予定の若手陶芸家、また益子からも製陶所経営者の方々など多くの陶芸関係者の皆様にご出席をいただきました。お忙しい中、誠にありがとうございました。内容は本や陶芸雑誌に無いこと、窯屋の視点から見た窯に関すること、窯屋として経験したことなどを実例に基づいてお話しいたしました。ガス窯、電気窯、灯油窯の性格や、得意とするガス窯の基本的な焼成方法、安全にお使いいただくためのガスの基礎知識、またお客様からたびたび質問されたことなどを例えを交えて分かりやすくお話しいたしました。終了後、多くの方から熱心な質問を受け、私も非常に勉強になりました。陶芸窯、特にガス窯には専門知識を持つ業者が少ないので、責任ある立場を認識しています。より安全により効率的に陶芸窯をお使いいただき、価値ある陶芸活動に少しでも寄与できますことを目標に日々努力いたします。弊社ではどんな質問も承っております。「知っていることはすべてお話しする、知らないことは徹底的に調べる」をモットーに対応いたしております。(ご質問は電話、ファックス、Eメールにて受付中！)

うれしい！楽しい！大好き！ダイチク！

## 東京藝術大学にて“緋炎”焼成会を実施いたしました(1/29~30)

1月29日、東京藝術大学美術学部工芸科陶芸講座のご協力を得て、「緋炎焼成会」を行いました。今回は芸大での焼成という貴重な体験をさせていただきました。また、関係者の方々には予想以上の評価をいただきまして誠にありがとうございました。深く御礼申し上げます。



### 【教授・学生さんに緋炎について印象を聞いてみました】

窯出しの時、とても立派な焼き上がりで感心いたしました。しかも13時間でここまで焼ける簡便性。また、部品交換も保障されているされている点、安心して穴窯に挑戦できる優れた窯であると認識させられました。

焚いている時間は思ったより忙しかつたけど、焼き上がりはとてもよい色が出来てよかったです。理論的に良く出来ているが、大物焼成にこの技術をどう生かすのかが期待される。

全体的に良い

自然釉は個人的にとっても好きなので自分でも焚いてみたいと思っています。

内容量は少ないがコンパクトで焼成できる点、また、窯の構造や温度の上がり方、薪(チップ)を入れるタイミング等を学びやすい点(集中力がかつても時間内で焚ける)が良いと思う。

これだけ釉がかかったら何も文句なし

15~16時間で焚ける、覚えてしまえば非常に簡単で楽である。

自然に毎回違った変化をもつものとしておもしろさがあると思います。 今回の焼成作品の一部



## お知らせ 3月の定期緋炎体験会のお知らせ

### 窯焚き日程

3月16日(金)午後1:00~窯詰め

3月17日(土)午前4:00~火入れ・午後5:00終了

3月18日(日)午前9:00~窯出し

窯焚きの経過により時間が前後することがあります。 雨天順延

くわしくは、お電話またはホームページで

0296-72-1444 <http://www.daichiku.jp/>

“大築窯炉工業 緋炎”で検索！！

## ユーザーさん登場 益子最大の窯元・つかもと様 ~ 1日10,000個の「釜っこ」が産まれる



2月17日から20日まで釜工場トンネル窯の点検修理が行われました。この間私たちも窯の中に入り炉壁の修理を行いました。炉内は火を止めて3日もたつというのにまだ数十度の熱さでした。つかもと様はご存知「峠の釜めし」の釜を作っている益子焼最大の窯元です。その釜がこの窯で1日10,000個焼かれます。釜の製造は機械化自動化されていますから、もしものことがあったら大変です。そこで今回の点検修理になりました。



釜製造工場の外観 歴史的工場ともいえる外観からは想像はつきませんが、内部には最新鋭の釜製造ラインが設備されています。機械化自動化されたラインのようす、作業する人たちは愛着を込めて「釜っこ」と呼んでいるそうです。



### 作業効率の向上とコスト削減を目指して日々尽力中！ ~ 柴邦太郎氏 ~

工場内での柴工場長の功績は大きいものがあります。例えば、(株)おぎのやさんとの釜の“通い箱”にメッシュボックスパレット「パレテーナ」を採用、輸送コスト削減に目覚しい効果をあげています。また、6mm厚の棚板を業界に先駆けて導入し、焼成コストの削減と作業効率の向上に成功しています(弊社提案)。従来の棚板は分厚く重いものでした。これを最新の棚板450×400×6ミリという薄くて軽量のものに変えたのです。女性スタッフでも楽に窯詰めができるようになりました。益子焼きでは比較的小さい0.8㎡ガス窯に2台車トラパーサー式の新設を提案したのも柴工場長です。これによって、トレンドである多品種少量生産に対応できる体制を完成させました。従来の2.0㎡ガス窯だけでは対応し切れなかった小口の注文に威力を発揮しています。0.8㎡ガス窯は女性スタッフでも無理なく作業できる大きさで評判も良好です。益子焼最大の窯元であるのにもかかわらず小型の窯を回転させるアイデアは、時代にマッチしたものとして高く評価されています。釜焼成用のトンネル窯は、現在のものに変えて12年になるので、この2月、消耗品の交換と炉内修理、焼成用の計装盤(プログラム焼成装置)を最新のものに変更しました。更に安定した工場運営が可能となりました。



工場の責任者である柴邦太郎氏 日々工場内の管理運営に苦心されています。今回はトンネル窯の頭脳(計装盤)も最新のものにしました。

### 民芸品工場もフル稼働・弊社のガス窯が3基お手伝い中



**2000年12月に完成の2.0㎡素焼き窯**  
この窯で素焼きを焼くと非常に操作性が良く、製品の歩留まりも最高です！所有の棚板にあわせて作ったフルオーダーメイドの逸品です。



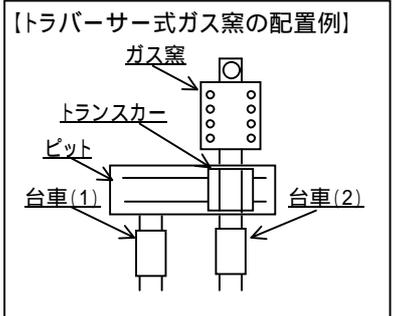
**1991年12月完成の2.0㎡ガス窯(本焼き用)**  
台車2台で交互に焼成できるトラパーサー式を採用、大物や大量注文に対応しています。また、炭化焼成が出来るのも大きな特徴です。もともとこの場所にはT社の古い4㎡のガス窯がありました。これを弊社で解体して新たに築窯しました。

**【ダイチクのウンチク】～素焼き窯～**  
素焼き窯は素焼き専用設計された窯です。通常のガス窯は本焼きのときに最も良く焼けるように設計されています。これとは逆に素焼き窯は、素焼きのときに最も良く焼けるように設計されています。素焼き窯は通常の窯より2倍以上の重さが台車にのります。強度も重要なポイントの一つです。素焼き専用窯はキズが出にくく短時間で焼成できます。弊社ではこのような素焼き専用窯を注文に応じて設計施工しております。

**【ダイチクのウンチク】～トラパーサー式～**  
窯と台車の編成には「トラパーサー式」というものがあります。これはガス窯1基に対して複数の台車(2台以上)を使用するものです。これによって焼成コストの大幅削減が可能です。焼成中、次の台車に棚積み用意しておき、窯出し後、窯が完全に冷めないうちに次の台車を窯に入れます。「トランスカー」という台車にのせ横にスライドさせ移動します。



**2004年7月完成の0.8㎡ガス窯**  
2.0㎡と同じトラパーサー式です。小口の注文にもスピーディに対応できるように2つの台車で交互に焼成できます。限られたスペースの中に窯本体、2台車とトランスカーを配置するという工事でした。設置場所を正確に測るところから始めました。



### はみ出し情報

益子町で“ヤマホン”と言えば  
ホームページ: <http://www.tsukamoto.net/index.php> “益子 つかもと”で検索！！

